

第24回サル疾病ワークショップ2015

日時: 2015年7月11日【土】10時～

場所: 麻布大学 8号館7階 百周年記念ホール (神奈川県 相模原市 中央区 淵野辺 1-17-71)

参加費: 3,000円 (含: 抄録代・軽食代), 要事前登録 <締切 2015年7月3日>

いま改めて『サル類の疾病と病理』を考える

サル類の病理学アトラスを作るために始まった本会ですが、とりまく微生物学的な環境の改善、サル類の研究使用目的・汎用サル種の変化、収集または公開されてきた情報の増加、など状況は創始期と比べるとずいぶん変わってきています。各機関の事業展開あるいは研究の方向性の違いから、必要な情報、先々に目指すものは異なっていくと思われる。おそらく以前より多様化しているそれらを一つにまとめるのは難しいかもしれません。しかし、そんな中で今一度、サル類を研究対象としているお互いを改めて知り合う、という主旨から、このようなテーマを設定しました。

各機関からの演者の先生には、時代とともにサル類に関しての現場で問題になってきたこと、研究の大枠の変遷、これからどんな情報が必要になるだろうか、などについてお話しただけならと思います。

いつもの各論的なテーマと異なり、具体性に乏しい総論的テーマではありますが、本会の今後の活動を考える上で (次版のアトラスの方向性などを含め)、いま整理しておいた方がよいと考え、提案いたします。 [大会長・中村紳一朗]

プログラム

開会のあいさつ [10:00～10:05]

1. 基調講演: サル類の研究利用の変遷、現状と課題 / 吉川泰弘 (千葉科学大学) [10:05～10:25]

セッション1

座長・片貝祐子 (予防衛生協会)

2. 展示施設におけるサル類の疾病の特徴 / 宇根有美 (麻布大学) [10:25～10:55]
 3. SPDPのアジア保全医学ネットワークへの貢献 / 柳井徳磨 (岐阜大学) [10:55～11:25]
 4. ニホンザル血小板減少症を経験して-ユーザーの意識、飼育者の意識、管理者の意識-/
 岡本宗裕 (京都大学霊長類研究所) [11:25～11:55]

❖ 軽食・ポスターセッション

[11:55～13:25]

トピックス

座長・中村紳一朗 (滋賀医科大学)

5. 輸入検疫中のサルで感染症法に基づく届出疾病が発生した際の対応について /
 秋田紗希 (農林水産省動物検疫所) [13:25～13:55]

セッション2

座長・小野文子 (千葉科学大学)

6. サル類の生殖関連基礎技術の重要性 / 山海直 (医薬基盤研霊長類センター) [13:55～14:25]
 7. 医科学研究用カニクイザルの基礎疾患 / 板垣伊織 (予防衛生協会) [14:25～14:55]
 8. マーモセットの疾病とその対策 -実中研の症例から-/ 井上貴史 (実験動物中央研究所) [14:55～15:25]

座長・佐竹茂 (新日本科学)

9. バイオ医薬品研究開発とサル類の病理 / 鈴木 雅実 (中外製薬株式会社) [15:40～16:10]
 10. 動物福祉と動物実験 / 藤井雅典 (ハムリー株式会社) [16:10～16:40]

総合討論

[16:40～16:55]

閉会の挨拶

[16:55～17:00]

懇親会 / 会場: さくら (学内) <4,000円: 要事前登録>

★ ポスター発表を募集しています。

★ 問合せ・参加申請・ポスター申込: spdp.itagaki@gmail.com